

協議事項14

プール開放事業について

プール開放事業について、協議事項として以下のとおり提案する。

令和5年6月23日提出

神戸市教育委員会事務局

事務局長 高田 純

プール開放事業について

1. 経緯

- ・本市では、これまで、子供たちに水に親しむ機会を創出することを目的として、地域住民等で構成される学校施設開放運営委員会による企画・運営のもと、夏季に小学校のプールを子供たちに開放する「学校プール開放事業」を実施してきた。
- ・しかし、地域の高齢化や共働き世帯の増加等による担い手の減少や、屋外の学校プールにおける熱中症リスク等の課題により、実施校数は年々減少していた。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年度及び3年度については事業を中止とした。
- ・このような状況を踏まえ、また、専門事業者のノウハウを活用することにより、水による子供の重大事故リスクの軽減も図られることから、令和4年度より「学校プール開放事業」を廃止し、対象児童に民間・公営の屋内プールの利用チケットを配布する「神戸市プール開放事業」へと移行した。
- ・令和5年度は、令和4年度に生じた、東灘区・灘区・中央区の利用枠の不足やキャンセル率の高さといった課題を踏まえ、対象施設を拡大するとともに、抽選制で予約受付を行うなど、より多くの子供たちにご利用いただけけるよう改善を図り実施する。

2. 令和5年度 実施内容

- (1) 対象：神戸市立の小学校、義務教育学校（前期課程）、特別支援学校（小学部）に通学する児童
- (2) 実施期間：

夏季休業期間（令和5年7月22日～8月31日）のうち、各事業者が指定する日
- (3) 児童1人あたりの利用券の配布枚数：5枚
- (4) 対象施設：40施設
 - ①休館日等に開放：35施設
 - ②短期教室等への参加：7施設

※短期教室に神戸市プール開放事業枠を設定、チケットを500円/日の割引券として活用
 - ③通常営業の中での開放：1施設

※イトマン御影校・西神校、ライフスポーツ KTV 垂水は①、②の両形態で実施
- (5) 昨年度からの主な変更点

	令和4年度	令和5年度
対象施設数	37施設	40施設
利用枠数	約30,000	約35,000
予約受付	各事業者で実施（先着順）	本市で予約受付（抽選制）

※東灘区・灘区・中央区で約3,000人分程度、利用枠を拡大

3. 今後のスケジュール

- ・7月上旬：事業の詳細発表、利用券の配布
- ・7月22日～8月31日：事業実施

【参考1】令和4年度実績

(1) 対象施設：37施設

①休館日に開放：30施設

②短期教室等への参加：7施設

※短期教室に神戸市プール開放事業枠を設定、チケットを500円/日の割引券として活用

③通常営業の中で開放：1施設

※イトマン西神校は①、②の両形態で実施

(2) 利用者数：延べ17,300人

(3) 課題

①東灘区・灘区・中央区の利用枠の不足

・東灘区・灘区・中央区の一部の施設において、予約開始の当日、又は翌日に予約が定員に達したこともあり、市民より「予約が取りにくい」との声が寄せられた。

・そのため、これらの地域を中心に、事業者と協議のうえ、新たに950人分の利用枠を確保する等の対応を行った。

②キャンセル率の高さ

・予約された方のうち3割程度がキャンセル、又は当日来場されず、利用枠を十分に活用できなかった

・この原因の一つとして、①受付開始日にすべての利用枠の募集を行ったことにより、「とりあえず仮予約しておく」という行動につながってしまったこと、②各事業者が提供する予約フォーム等にて受付を行ったことにより、1人あたりのチケット枚数(5枚)を超えた予約ができてしまったことが考えられる。

【参考2】

(1) 「学校プール開放事業」の実施校数の推移：

H27：146校、H28：144校、H29：142校、H30：140校、R1：126校

(2) 令和3年度の実施希望校数：69校

(3) プール開放についての保護者アンケート結果(令和4年1月7日～1月19日実施)

①対象者：79,779人(小学校等保護者)

②回答数：12,172件

③結果：民間や公営プールの無料利用券の利用が望ましい(9,149件 約75.2%)

従来通り学校のプールの開放が望ましい(3,023件 約24.8%)